

三大寺と町並みを観光の目玉に —高岡市—

社団法人中部開発センター

客員研究員 青山 征人

中部開発センターでは、景観に関する意識調査やセミナー、シンポジウム、機関誌を通じて、景観法の仕組みや各地の事例を紹介するなど啓発活動を行ってきたが、今後は中部圏各地の具体的な取り組みを紹介することによって、景観意識の高揚、「美しい国、まちづくり」を推進していきたい。

はじめに

富山県高岡市は清潔な町である。目をそむけるような、けばけばしい看板はないし、野積みされた廃棄物も見当たらない。行政の目が行き届いているためだが、基本的には市民の意識が高いためであろう。高岡市は2005年（平成17年）11月に、旧高岡市と旧福岡町が合併して、誕生した。富山県の北西部に位置し、人口は182,800人と、富山市に次ぐ第2の都市である。市内の西側には二上山（ふたがみやま）とこれに連なる西山丘陵があり、市域の大部分は庄川と小矢部川によって形成された平野部からなる。市域の北東部は富山湾に面しており、伏木港は天然の良港として、古くから物資の集散地として拓け、奈良時代には越中の国府が置かれた。万葉集の歌人である大伴家持は1260年前の746年（天平18年）に、国守としてこの地に赴任した。

高岡市が、本格的な発展を迎えるのは江戸時代に入ってから。加賀藩2代藩主前田利長が1609年（慶長14年）に市内中心部に城を築き、鋳物、漆器の生産を、また3代利常が商業を奨励するなど商工業振興策を取り入れたことによる。時代は下って、1889年（明治22年）4月の市制町村制施行では全国で31の新市が誕生し、高岡市はその一つとなった。市内は風光明媚である上、仏教寺院や重要伝統的建造物群保存地区など観光施設は豊富にあり、市では現在策定中である総合計画の中でも観光を重要課題として掲げている。また2006年7月に景観行政団体を宣言し、景観計画を推進

する。東海北陸自動車道が全線開通すれば、名古屋中心部から高岡まで3時間でアクセスできるようになる。

1 万葉のふるさと

日本地図を逆さにして見て見よう。日本海を挟んで、「越（こし）の国」と言われた北陸一帯は日本の中心に位置し、大陸と向き合っている。その影響を受け高度な文化が中国、朝鮮から流入していたことが、古墳の副葬品の特徴に見られるように、同地一帯は早くから拓けていた。越の国が越前（福井県）、越中（石川、富山県）、越後（新潟県）に分割されるのは、律令国家が成立する7世紀後半と推定されるが、中でも越中は朝廷支配が及ぶ東端に位置し、蝦夷に対する前線基地の役割を果たした。と同時に、人や物を東西に流通させ、東の文化と西の文化を交流・伝達する、情報拠点ともなっていた。大和朝廷は、701年に大宝律令を制定し、諸国に国司を置く中央集権体制を確立。越中では高岡市伏木古国府（ふるこふ）の現浄土真宗・勝興寺あたりに政務を司る国庁を設置した。この地は稲作に適した原野が広がっており、国家第1の大寺である東大寺の財源を生み出す重要な穀倉地と位置づけられた。746年（天平18年）には、大伴家持が国守として赴任してきた。内陸の奈良盆地と違って、越中には大きく広がる海原や夏でも純白の雪を輝かせる立山連峰、緩やかに流れる河川、奈良の二上山（にじょうざん）と同じ名を持つ、たおやかな二上山（ふたがみや

ま)など自然が一杯あり、詩情をかきたてられた。帰京するまでの5年間に、自身が詠んだ歌は220余首、周りに集まった人の歌を合せると、325首もの歌を万葉集にとどめた。同市発行の資料によると、万葉集全4516首のうち、作者の分かっているベスト5は、家持473首、柿本人麻呂91首、坂上郎女84首、山上憶良76首、大伴旅人71首とのことで、家持が群を抜いている。こうしたことから高岡市には「万葉のふるさと」という想いが強く、高岡市万葉歴史館を開設するほか、連続3昼夜にわたって万葉集全歌をリレー方式で詠い継ぐ「万葉集全20巻朗唱の会」など万葉をテーマとするイベントを開催している。

2 高岡の繁栄は江戸期に入って

歴史は一気に江戸期まで下る。というのは平安、鎌倉、室町、戦国時代を通じ、越中の歴史は深くかつ複雑で、にわか勉強ではとても納得して貰う文章にならないためである。有力な頭領を持たないまま多くの地方豪族が荘園、国衙領を奪い合い、時の権力と結び付いたり、離れたりしながら、戦禍を繰り返し、そこに宗教戦争が加わる複雑さ。あの信長でさえ一向一揆には手を焼き、安定するのは信長の死後、秀吉によって前田利家が加賀、能登、富山に入封されるのを待たねばならなかった。その前田家でも浄土信仰の厚い領民の支配に



写真1 雲がなければ海のおこうに立山連峰が見える雨晴(あまはらし)海岸。海越しに3000m以上の山々を望むところは世界でも少ない。大伴家持はここで多くを詠んだ。

は腐心した。

高岡の町が開かれたのは、1609年(慶長14年)に加賀藩二代藩主の前田利長が弟・利常に代を譲り、関野、今の高岡市街地中心部の小高い丘に隠居城と城下町を築いた時からである。城の下部を碁盤の目状に町割りし、近隣から商人を呼び寄せた。この商人町が後に重要伝統的建造物群保存地区に指定される山町(やまちょう)筋の始まりである。利長は1614年に亡くなり、その翌年の1615年の大阪夏の陣で豊臣氏が滅びた後の「一国一城令」で、高岡城は廃城となり、武士団は金沢に引き上げた。しかし三代藩主利常は高岡町民の他所転出を禁止し、町人の自治組織である「町年寄」制度を導入して、城下町から商工業都市への転換を図った。工業では利長が7人の鋳物師を招いて武器や鍋釜の生産を奨励し、それが梵鐘、工芸銅器に、さらにはアルミ産業に発展した。また商業では魚問屋、塩問屋が創設され、高岡城跡には藩主に納めるための米蔵、塩蔵が設けられた。文政年間の1824年には加賀、能登、越中の綿の取引に関する販売独占権が高岡商人に与えられ、明治になると米取引の高岡米商会所が開かれるなど、高岡は繁栄を極めた。

3 歴史遺産を観光に

こんな歴史を有する都市だけに観光資源は豊富。石川県境に源を発する小矢部川と岐阜県飛騨山脈を源とする庄川の2大河川が市内を流れ、海・山・川と自然環境は抜群である上、縄文時代の大規模古墳、『延喜式』以来の気多神社、射水神社、一向一揆の拠点となった城郭様式を遺す勝興寺、利長公の菩提所として建立された国宝瑞龍寺、商工業資本が築いた山町や金屋町の町並みなどがある。また市の中心部は高岡城跡が古城公園として整備され、21万平方メートルの広大な用地は四季鮮やかな自然美を見せるなど緑も多い。第二次世界大戦の戦禍に遭わなかったとはいえ、これだけ豊富な歴史遺産を保有する都市は少ない。観光都市として発展する可能性は十分にあるのに、他市

同様に人口減少、高齢化、中心部の空洞化が進んだのは、そうした資源を十分に活用しなかったためか、それとも観光に力を注がなくても豊かな生活が享受できたためであろう。



写真2 真宗王国越中の代表的寺院である勝興寺の唐門、奥に見える本堂は北陸最大の大きさである。戦国期には越中一向一揆の拠点ともなった。現在修復工事中。



写真3 勝興寺の境内は奈良時代に国庁（こくちょう）がおかれたところとされている。家持は国守として5年間赴任した。



写真4 重要文化財「武田家住宅」は武田信玄の弟信綱の子孫が建てたといわれ代々肝煎（きもいり）をつとめた豪農であった。山岡鉄舟や横山大観が訪れ、作品を残している。

4 寺院修復と町並み保存

「三大寺院を観光の目玉にしたい」と橘慶一郎高岡市長が言うように、市内には寺院が多いが、



写真5 加賀二代藩主前田利長の菩提をとむらうため三代藩主利常が建立した瑞龍寺の仏殿（右）と法堂（左）。写真にはないが前の山門とともに国宝に指定された。



写真6 明治33年の大火を教訓に防火建築の土蔵造りで建て替えられた山町（やまちょう）筋。重要伝統的建造物群保存地区に選定された。



写真7 山町筋にある富山銀行本店（旧高岡共立銀行本店）はルネサンス様式のレンガ造り。東京駅を設計した辰野金吾が設計のアドバイスをした。現在も使用されている。

中でも瑞龍寺、勝興寺、臨濟宗国泰寺は有数なもの。瑞龍寺は中国の伽藍様式を模して建立され、総門・山門・仏殿・法堂を一直線に配置し、左右に禅堂と庫裏を置き、さらに回廊で結ぶ堂々たる禅宗寺院である。1996年までに文化庁の助成を受け、往時の姿に全面的に復元する工事を行い、1997年には山門、仏殿、法堂が国宝に指定された。これに続き、重要文化財の勝興寺が1998年から20年計画で大修理が行われており、本堂の修復が2003年に完了した後、書院、台所、大広間など庫裏の工事が進められている。

一方、町並み保存では土蔵造りの商人町、高岡市山町筋が2000年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。市街地の6割を焼失した1900年(明治33年)の大火の教訓を得て、当時の防火建築物である土蔵造りや洋風建築を取り入れ、重厚かつデザイン的に優れていることが評価された。また



写真8 400年前、高岡の町を開いた加賀藩二代目の前田利長が、7人の鋳物師を招いて鋳物産業を興したのが金屋(かなや)町。千本格子の町屋が並ぶ。



写真9 古城公園の堀に面した池の端通り。都市景観形成地区に指定され、地区の特性を活かしながら景観形成を進めていく。

高岡鋳物の発祥の地、金屋町では今も残る千本格子の町屋を保存するとともに、石畳舗装、無電柱化などを行った。山町筋についても、これから無電柱化など景観を配慮した町並みを整備していく。

5 高岡市の景観計画への取り組み

高岡市は1998年に、町並み保存・都市景観形成に関する条例を制定。市民及び地区住民の意向を尊重しながら、文化財保護法、建築基準法、屋外広告物法などの制度を活用して景観保全に取り組んできた。合併した旧福岡町も2004年度には福岡町景観づくり基本計画を策定している。2005年の新市誕生を機会に改めて景観計画を進めることになり、2006年7月に景観行政団体の名乗りを挙げるとともに、計画策定に向けての具体化に取り掛かった。基本方針として「自然環境と歴史・文化と近代性が調和した風格のある美しいまちづくり」を掲げた。すでに地区指定している山町筋や「池の端通り景観地区」の景観形成を引き続き進めるとともに、新たな景観を形成する農村、山並みなどの地域も対象とする。2006年9月から景観についての審議会を開催しており、今年度中には住民アンケートを行って、審議会に反映させる。そして2007年に景観計画策定委員会を発足。1年かけて素案を作り、2008年には住民説明会を開催する考え。

6 課題はアクセス

高岡市の悩みは高速交通体系から取り残されたこと。2000年に能越自動車道の高岡インターチェンジ、2004年に同高岡北インターチェンジが開通して北陸自動車道と結節し、金沢、富山とのアクセスは良くなったが、中部圏と接続する東海北陸自動車道は岐阜県側白川ICと荘川IC間が工事中。全線開通にはあと1年3ヶ月待たなければならない。しかしこれが開通すれば、名古屋中心部まで3時間で行くことができ、愛知、岐阜、三重3県

との交流は大きく伸びると予想される。すでに「飛騨・越中・能登」を結ぶ広域観光ルートが設定されており、中部国際空港または能登空港を基点として、海外からの観光客を呼び寄せることは十分可能となる。

さらに2014年には北陸新幹線の長野—金沢間が完成し、新高岡駅（仮称）と東京が直結する。

感想

富山県は、都道府県別「生活の豊かさ」調査で、常に上位にランクされる。自然は豊かで、持ち家比率は高く、富山湾から供給される魚介類は新鮮そのもの。高岡市の場合、伝統産業に加え、アルミや化学工業が立地し、働くところもある。日本全体から見れば、十分恵まれた都市と思われるが、それでも若者の流出は続き、町の活気は失われつつある。都市としての魅力に欠けるのか、雇用の場がないためか、理由は分からない。そうした中で景観計画を進め、観光を重要産業と位置付けて振興していくことは時宜にかなっている。ハード面では既に十分整っているの、後はソフト面での構築である。観光客をもてなすための食事、休憩施設の設置や市内観光ルートの開発、みやげ物・特産品の掘り起こしなどである。富山湾は暖流と寒流が会う天然の生簀。新鮮で豊富な魚介類が水揚げされ、高岡市内では安価な魚料理を提供する。取材日の夕食は地元の人が入り出る居酒屋を選んだが、出された料理は前菜、刺身、から揚げ、毛がに、鮎の塩焼き、ぶり大根など8種で、それに使われた魚介類は15種類に及んだ。地酒をたらふくいただいて7千円でお釣がきた。

参考文献

- (1991)：「たかおか—歴史との出会い」(高岡市)
 (1997)：「富山県の歴史」(山川出版社)



写真10 居酒屋「八五郎」での料理。手前左から時計回りに豆腐のあんかけ（紅ずわいがに入り）、ぶり大根、毛がに（2人前）。細皿上が前菜（きじえび、しろえび、げんげ、小ばい貝）、細皿下が刺身（ぶり、マグロ、アオリ、アマエビ）、これに鮎焼、すり身の唐揚げ、土びん蒸しが付いて約5000円

市長インタビュー

高岡市長 橋 慶一郎氏に聞く



「東海北陸自動車道が全線開通すれば高岡と名古屋は3時間で結ばれる。自然と歴史と新鮮な魚に恵まれた飛越能に東海地方から多数来てもらいたい」と期待する橋 慶一郎高岡市長

略 歴

- 1984年 3月 東京大学法学部卒
- 1984年 4月 北海道開発庁入庁
- 1989年 6月 ケンブリッジ大大学院修士課程終了
- 1991年 4月 北海道開発庁企画室開発専門官
- 1993年 9月 北海道開発庁退官、伏木海陸運送副社長就任
- 1995年 9月 伏木海陸運送社長
- 2004年 4月 同会長
- 2004年 5月 旧高岡市長（05年10月まで）
- 2005年11月 新高岡市長就任

富山県出身、45歳

—高岡市は落ち着いた、きれいな町ですね。

橋 ありがとうございます。高岡市は第二次世界大戦の戦禍を受けていないため、神社仏閣や町並みなど戦前の建築物がそっくり残った。1900年（明治33年）の高岡大火で市街の6割を焼失したが、山町筋など防火意識の高まりで、土蔵造りやれんが様式が取り入れられ、今となっては落ち着いた、

重厚な雰囲気醸し出している。鋳物発祥の地、金屋町では千本格子の家並みが美しいたたずまいを見せている。すばらしい景観と思うが、実は市民自身は十分認識していないように思えてならない。外国人が来ましてね、この市長室から見える古城公園を眺めて、「町の真ん中にこんなに広い、公共のグリーンスペースがある都市なんてめったにない」と驚いていた。ここで生まれ育った市民からみれば、この公園なんて、水か空気みたいな存在だが、外部の評価は高い。高岡には先祖が残してくれたそうした遺産がたくさんあると思う。それを磨けば光ってくる。光れば人は寄ってくるし、それが市民の自信に繋がる。

—「みんなでつくろう光り輝くまち・高岡」がキャッチフレーズと聞いています。

橋 この町を、誰もが住みたいまち、誰もが行きたいまちに高めていきたい。高岡には歴史、文化資産のほか、高い工業集積、豊かな自然などの魅力がある。将来東海北陸自動車道の全線開通、新幹線など社会基盤が整備されれば、東京、中部への移動時間が大幅に短縮され、人、物の交流は飛躍的に伸びるだろう。そうした可能性を前に、どうしたら生活の豊かさと満足を実感できるまちづくりができるか、市民一人一人が考え、参画して行ってほしい。市民が住みたいまちを実現すれば必ず、県外からの観光客や移住希望者が増えてくる。確かに中心市街地は空洞化が目立つ。震災に遭わなかったということは、逆に欠点もあり、若い人たちは間口が狭く、奥行きが長い昔ながらの家屋を嫌う。郊外に移れば、駐車場スペースもゆとり取れるため、市街を離れ、中心部の居住人口は減り、購買力が弱くなった商店街は寂れることになる。全国同じ現象だろうが、高岡市では2007年度から市街地に人を呼び戻す政策を立てていく。中心部に集合住宅を建てたり、これまでの2戸を1戸にまとめて居住空間に余裕を持たせられないか、など研究し、中心部の人口増加策を進めていきたい。

—高岡は高速交通体系から取り残されました。

橘 外部要因としてはその通り。北陸自動車道は、南の砺波市を走っており、能越自動車道が完成してようやく高岡市のインターチェンジと結ばれた。この完成で西は金沢、京阪神、東は新潟へのアクセスが楽になった。これから期待しているのは東海北陸道の全線開通である。実は名古屋というのは高岡市民にとって、東京や京都以上に遠いところ。東京まで距離はあるが、越後湯沢乗り換えで上越新幹線を使えば3時間で行ける。しかし名古屋までは4時間かかる。1年半後に東海北陸自動車道の工事区間が完成して、全線開通すると、名古屋まで3時間程度でアクセスすることが可能となり、半日行動圏に入る。人の往来、物資の流通は活発になり、高岡から名古屋のデパートや中部のレジャー地へ簡単に行けるし、逆に名古屋からは氷見の魚を食べに行こうか、途中で高岡の観光地に寄ろうかと、週末レジャーの候補地に加えてもらうことになる。中京圏には1千万人の人口があり、期待したい。さらに、長野新幹線が金沢まで延伸されると、首都圏と高岡は2時間半で直結することになる。隣の新潟県には長岡市という、高岡市と似た都市があるが、長岡市は25年前に高速道路、新幹線とも整備されたのに対し、ようやく高岡市もそうした社会資本を持てるようになった。それを高岡市が観光を含めどのように活用していくかが課題。市民に観光に対する理解が浸透してきており、景観計画を進めることによって観光都市としての磨きをかけたい。

—市民に観光地化への理解は深まりましたか。

橘 高岡市は日本海随一の商工業都市として、稼いだ金は他所の温泉に行ったり、伊勢参りをするなど市外で使うものと決めていた。自分のまちに観光客を呼び寄せるなんて考えてもいなかったが、瑞龍寺さんを修復し、それが県内初の国宝に指定され、観光客が増えるにつれ、「他所から見学に来てくれるのか」と、自信を持つとともに、意識が変わってきた。この寺に次いで、現在修復しているのは勝興寺。本願寺8世の蓮如上人を開

基とするお寺だが、日本海側で一番大きな本堂は修復を済ませ、今後庫裏を15年かけて修復する。これも国宝に指定されるのではないかと期待している。この2寺と臨済宗国泰寺を合わせ、私は高岡三大寺と呼んでいるが、高岡市はこれら仏閣と町並み、伝統産業をセットにして売り込んでいきたい。「高岡」という地名は前田利長公が1609年9月13日に入城して、中国の詩文から取った名前。3年後には400年を迎えることになり、400年祭を盛大に開きたいと思っている。それともう一つの顔が万葉のふるさと。伏木には国府が置かれ、大伴家持が5年間滞在し、多くの歌を残した。かつて家持が政務をとった国庁跡に近く、眺めが良い場所に万葉歴史館を建て、万葉への理解を深めてもらっているし、毎年10月の第1金・土・日曜日には「万葉集全20巻朗唱の会」を開き、水上舞台で4516首を歌ってもらっている。それこそ百人一首調、詩吟調、歌曲調、朗読調などスタイルこそ違うが、一人一人が想いを込めて歌うもので、県外からも多数参加を得ている。子供の頃から、意味は分からなくても、古い和歌に接することは情操教育の上で大切だと思っている。この会も3年後には20周年を迎える。

—高齢化社会の到来で、これからは中高年ターゲットにした観光対策が大切です。

橘 世の中が変化していると思う。子供や若者向けの施設を作り、観光客を呼び寄せることも大切だろうが、日本人はどこか奥底に、「心のふるさと」を求めていると思う。特に第2の人生を迎えた方々はそうした場所を希望しており、先程申し上げた勝興寺には三重県から毎日、団体で来ていただいている。その意味で飛・越・能を縦に結ぶ東海北陸自動車道の役割は大きい。途中には世界遺産の五箇山・白川村があるし、八尾町のおわら風の盆、郡上市の徹夜踊はじめ古くからの祭や踊も盛ん。シニア世代にとっては、しっとりとした、心の満足が得られるような旅行を味わってもらえるのではないかと。高速道路が完成すると、高山との距離が短くなり、今後、高山、金沢、高岡、黒

部、輪島などを結んだ心のふるさと巡りが活発になると期待している。その意味で、これからは県単位の観光振興ではなく、地域が連携する広域観光の時代である。

—総合計画はどのような内容になりますか。

橘 現在策定中で、2007年夏には完成する。これまでは10年単位の計画であったが、今回は高速道路、新幹線がすべて開通する15年先の2020年代を最終目標に置いた。内容で強調するのは観光と人づくり、協働の3点。観光はみんなが行きたい町づくり、人づくりはみんなが住みたい町づくり、協働はそうした町をみんなが作ろうという、意思を込めた。少子・高齢化社会の中で、どのような町づくりをすれば、市民の納得が得られるか、また協力が得られるのか、計画案を練っている最中。

—景観行政団体としての取り組みは。

橘 県の同意を得て2006年7月に宣言した。旧福岡町を含めて全市域を対象とし、自然環境と歴史・文化と近代性が調和した風格のある町づくりを目指す。農村部でも市域の南部では散居村といって、散らばって住宅を構え、周りに樹木（屋敷林）を植えるという特有の方式を採っており、景観保全は大切。ただ人々の価値観が多様化し、従来型の画一的な町づくりではなく地域の風土・文化や伝統を活かした個性ある町並み形成が求められており、それをどうしたら実現できるか、区域、住民との話し合う中で進めるつもり。これまでの条例改正を含め、2008年春には計画案を策定して、住民説明会を開催する。そして2009年3月には計画を策定して告示・縦覧し、スタートしたい。

—市長には申し訳ないが、高岡市にこれだけ多くの観光資源があるとは知らなかった。情報発信に問題がありませんか。

橘 その通り。先日九州へ出張したら、富岡市（群馬県）や高山市（岐阜県）と間違われた。高岡市に限らず、富山県の県民性として自己主張は得意

でないかも知れない。それと高岡市には高岡ブランドなり、地元料理がないのが欠点。名古屋なら鶏料理、高山なら飛騨牛のしゃぶしゃぶというように、郷土料理があると、名前を覚えてもらやすい。私は市長のほかに、「越中を自慢する会」の名誉会員という肩書きを持っている。越中には海の幸、山の幸、持ち家比率など自慢するものが沢山ある。それを知ってもらうために、どんどん発信していきたい。

—ありがとうございました。